

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境、地域との交流の下」を運営規定に明記している。ホーム理念として「入居者が長生きしてよかった」「家族に安心していただける」「笑顔と真心で」を掲げ、入居者や家族等、職員に周知するために玄関や事務所に掲示している。運営規定にも明記している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼や毎月のカンファレンスで理念を唱和し、管理者は職員雇用時に理念を説明している。入居者の状態に応じた外出支援や個別レクリエーションを取り入れ、理念の実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族宛には毎月の便りを発行して日々の取り組みを報告している。地域には回覧板を通じて日々の取り組み内容をお知らせするほか地域の寄り合いにおいて説明をおこなっている。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者がバルコニー立ちして登下校時の子どもさんや近所の方へご挨拶をしている。たまに立ち寄ってくれることがある。市内一斉清掃への参加で空き缶拾いや雑草取りを近所の方と行っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区自治会に加入している。子ども110番も引き受けている。地域で開催している転倒予防教室に2名の入居者が参加している。体育会や文化祭には地域からの参加がある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>広報誌等で介護相談に無料で応じる告知をしています。たまにお問い合わせや相談がある。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>新人を含む職員に周知するよう取り組んでいるが今回は新人が多いことから運営者がまとめている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域区長等、家族代表、ホームドクター、市担当者等で開催している。市担当者には開催日時を記載した委嘱状を交付している。会議では入居者の心身の状況やホーム行事等を話し合い、家族からの要望を検討し会議録を整備している。欠席の運営推進委員には会議録を郵送して報告している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターにホームの入居状況を連絡している。入居者の疾病や感染症について、し担当者に相談しアドバイスをケアに生かしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>代表者及び管理者が地域福祉権利擁護事業や青年後見人制度の研修会に参加している。青年貢献制度について地域包括支援センターに相談した。具体的な事例がある。</p>		
11	<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修会において年2回虐待防止の事例研究をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	より具体的に説明し、納得が頂けるように行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	CSを経営管理の観点から捉え、こちらから利用者のご家族に問いかけることにより、要望・苦情が言いやすいように工夫している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1ヶ月に最低1度は、ご家族に訪問して頂くことを義務としており、その際に定期報告を行っている。金銭については、出納帳に確認印を頂戴している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	CSについて、経営戦略会議で取り上げており、今後もっと利用者・家族の要望が吸収できるように仕組みを改善していく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議において活発な意見交換ができています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	やむを得ない場合の病院受診の職員配置の手配。レクレーションやイベントごとの職員手配等をおこなっている。またイブニング入浴について重点的に職員配置をしている。配置については職員と十分な話し合いをおこなっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を壊さないように新規職員は研修計画に沿って指導し職員の資格取得を支援することで職員離職を防止している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	採用に関しては高齢者や介護が好きであることを重視している。採用後の研修は研修計画に沿って実施し定期昇給の実施や休憩時間を交代で確保している。健康診断を行い、その結果を産業医に報告。保健師のカウンセリングを受けている。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	倫理規定を設けて勉強会をしている。身体拘束防止や虐待防止について勉強会をしている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間研修計画を作成し定期的に研修を実施している。	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	全国高齢者グループホーム協会に加入し情報の吸収、相談を行っている。業務連携先の特別養護老人ホームとの交流は盛んである。	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職場内喫煙所の設置及び休憩時間が十分に取れるようにしている。また有給休暇が取れるように積極的に奨励している。	○ 職員旅行や親睦会の実施
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員各自のスキルに合わせた研修機会の確保に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前のアセスメントにより確認することもあるが入居希望者にはホームのイベントや行事に参加してもらいホーム生活を体験することで雰囲気馴染めるように支援を行っている。</p>		
26	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みの際には要望を聞き説明を十分に行うように努めている。</p>		
27	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ソーシャルワーク的な援助相談をして受け付けている為、他サービスを勧める例がある。</p>		
28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>医療関係者やケアマネージャーやケースワーカー等と密に連携をし本人や家族に施設見学をしてもらっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りやレクレーションを通じて世代の違う職員と利用者がお互いに支えあう場面作りに努めている。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月に一度は来訪していただき食事をしたり、料理を作ったり、外出したりすることで家族との絆を深める為の支援をしている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>墓参の奨励、自宅への外泊支援、家族旅行への参加の支援を行っている。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前済んでいた場所のご近所さんへの挨拶、及びその方たちの訪問を奨励している。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>気の合う仲間同士テーブルの座席をつけて支えあう仕組みを作っている。果物の皮むき、お茶の配布、配膳、下膳等日常生活において協力関係が見られる。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>一緒に生活したも同士の関係を継続する為にお葬式や四十九日、初盆、一回忌法要への参列を行っている。また、入院した方には入院先への利用者のお見舞いを支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からやご家族の意向などを聞き、入居者本意のサービス提供に取り組んでいる。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり生活暦等をアセスメントし、計画作成担当者と職員が相互に情報提供している。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が細かに行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を導入し、基本情報をアセスメントする台帳を整備している。介護計画を作成するために担当者会議を開催し、職員の意見を反映させている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に職員から介護計画作成担当者に報告をし3ヶ月から6ヶ月でモニタリングを行って新たな目標設定につなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや問題点を計画作成担当者に報告することで適正な介護サービスの提供に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の心身の状況に応じて医療機関受診を支援し、重度化を防止している。また、入居者の希望に応じてショッピングや外食を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の交番に入居者リストを定期的に提出し、万が一の事故に備えている。消防訓練における消防署の指導や地域消防団との連絡を密に行っている。市立美術館や石炭博物館等の文化施設を利用している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所のケアマネジャーやデイサービスセンター職員との交流は盛んに行っている。	○	在宅に復帰する場合の支援を、他サービス事業者と話し合っている。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な事例がある場合、包括支援センターに先ず相談している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の支援協力により、納得された医療機関での受診が行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームのホームドクターである吉田医師は、認知症に詳しい訪問医療の専門家であり適切なアドバイスが得られる。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	市役所の医療職から、事例を相談することにより、適切なアドバイスを得ている。医療連携看護職及び居宅療養管理指導の医師が週1回訪問して健康管理や受診の要否のアドバイスを得ている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院と頻繁に相談し、早期退院に向けての取り組みは充分に行えている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの見取りや重度化した場合の取り決めに整備して、事例が生じた場合いつでも対応できる体制を取っている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医や家族と話し合い、適切な医療体制の確保、早期の見極めや支援の判断を行っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に弱い認知症状のある方への配慮を充分に認識し、関係者特にご家族や他事業所等ケアに関わる部署の方々と協働で支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規程を明示し、職員が守るべき倫理規定等について研修会で周知を行っている。個人情報はデータベース管理を行い、本部で一元管理しているが、プロフィールや個人記録類は職員室で管理している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の共同生活の中で、本人の好きなこと、嫌いなことを見極め、適切にサービス提供を行える体制を維持している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活暦を職員間で共有し、希望には柔軟な対応ができています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出の支援を積極的に行っているため、身嗜みやおしゃれができる利用者が増えている。希望者には理容・美容を勧めているが、現在では利用の希望がない。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者へ献立の相談をしたり、好きなものの希望をできるだけメニューに取り入れている。買物から材料準備、配膳下膳も共同作業で行い、協働意識が浸透している。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、希望に沿って提供する規定であるが、現在お酒・タバコ等の嗜好者はいない。おやつはリクエストが多く、好みに合わせた提供ができています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄パターンの把握とトイレ誘導を適切に行うことで、失敗を減らす取り組みが成功している。オムツ類の使用を減らす取り組みも一定の効果を維持できている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2, 3回の入浴を実施し、全員拒否なく入浴が行われている。月に2, 3回ではあるが、希望者にイブニング入浴(18時より)を実施している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は安眠確保に重点を置いて、適切な睡眠時間の確保に努めている。日中もできるだけ自由な時間を確保し、休息を取りながらレクリエーションを提供できるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状況に応じて、下膳や仏様のお世話を支援している。毎日午前・午後に分けて全体・個別レクを楽しみ、食材の買物を同行で行い、誕生日会を開催するなど生きがいや楽しみ作りを行っている。	○	さらなる生きがい作りへの取り組みを行いたい。家族の協力支援、公共機関の利用等
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	私物の買物は利用者自身が行い、その際にはレジでの支払いには本人が行うなどの支援を行い、できる限り希望に沿えるように支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等外出の支援はほぼ毎日行われており、体調不良や雨天等以外は必ず戸外に出掛ける。買物やドライブも頻繁で、外出の機会は非常に多いといえる。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参や思い出の場所等、家族の協力を得ながら行えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のお孫さんへの便りの支援、年賀状や暑中見舞い等の通信手段の使用への配慮を積極的に支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	今期は新型インフルエンザの流行報道等により一定期間、身元引受人様のみでの訪問に限定していたが、今は通常通り面会時間中であれば、いつでも気軽に訪問ができる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人の導入研修や年2回の勉強会を通じて、具体的に理解と知識を共有できている。身体拘束排除宣言を行い、朝礼時には唱和している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯のために19時から翌朝7時まで施錠しているが、日中は施錠せず見守りで対応している。施錠よりも落ち着いたケアへの取り組みを行って、徘徊を予防したいと職員全体で取り組んでいる。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない見守りや巡回を行い、危険の予防や安全確保への配慮を行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険の予測により、代替品での対応等工夫をすることで、さりげない危険の排除を行っている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険は予測がつく限り排除する方針を職員一同で確認し、日々の取り組みに生かしている。また、事故を未然に防止するために、必要な知識の啓発と職員相互の複数確認システムにより取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の初期対応や通報体制について整備・マニュアル化し、研修会や月例会議で確認をおこなっている。看護職による事例の対応検討会や感染予防の勉強会を行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の際に、緊急災害避難場所の確認を行い、日頃より意識づけをしている。3日分程度の非常食の備蓄を行って、緊急時に備えている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個別に起こり得るリスクについて、機会のあるごとにご家族に説明し同意を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間での気づきを速やかに報告し、情報を共有してケアに生かす取り組みが行えている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳を活用し、薬剤の把握は行えている。医師、薬局の指示による用法・用量の把握はできている。担当医から頓服の薬剤の使用方法について指示を受けているほか、24時間医師が相談に応じてくれる。	○	職員への薬の知識の啓発が進んでいない。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を毎日1600cc以上行う取り組みをしてから、便秘の解消が進んだ。繊維質の摂取や運動、腹部マッサージ等、自然な排便への取り組みを行っている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアがきちんとおこなっている。問題が発生した場合の歯科受診の支援を行っている。	○	全員の歯科健康診断が行えていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、栄養評価を行ってバランスや量について検討している。水分量は最低1600ccを毎日摂取できており、概ね良好である。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを周知させ、日々実行することにより、衛生的な環境が維持できている。特に本年度は、新型インフルエンザの流行については職員全員で取り組み、感染者0を達成した。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に重点的に取り組み、消毒、手洗い、うがい、調理器具の洗浄を定期的に行っている。食材は腐食防止を徹底して管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	威圧感のない雰囲気を出す為、玄関横に洗濯物を干したり、プランターで花を栽培したりして、親しみやすく工夫をしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と共用スペースはアコーデオンカーテンで仕切り、寛げる空間を演出している。バルコニーには季節の花を植栽して落ち着いて過ごせる工夫をしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファや畳コーナー、バルコニーを利用して利用者が思い思いに寛げる空間が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	。	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際、持ち込み品の制限をしない為、本人の希望により仏壇や遺影等、思い出の品を飾っている。お孫さんの写真で和んでいる。</p>		
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>室内・外温度計を設置して適温調節に努め、換気、保湿、適切な衣服の調節を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者は、手摺や歩行器を使って自由に移動が可能な配慮がなされている。浴室・トイレも安全に行動できる造りが確保されている。</p>		
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>浴室・トイレ・自分の居室等、居場所が分からなくならないよう分かりやすい表示をして、さりげない工夫をおこなっている。</p>		
89	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>バルコニーを近所の挨拶立ちや物干しとして利用し、日常生活の場として楽しんで活用している。夏には野外バーベキューやスイカ割りを行って楽しく過ごしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

外出の支援については、利用者の状況に応じて活発に行えており、それに伴って身嗜みやおしゃれが行えている。午前・午後のレクリエーションの取り組みも、頭脳レク・運動レクと分けて夫々の能力を生かした内容になっている。水分補給1600cc以上に取り組んだ結果、排便の改善・活力の維持に繋がった。